

大牟田市立明治小学校（福岡県）

1) 活動の目的及び教育上の位置づけ

本校の周辺には、大牟田エコタウンやRDF発電所など、エネルギーに関する施設があり、平成17年度からエネルギー環境教育に継続して取り組んでいる。近年では、SDGs 17の目標のうち、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と13「気候変動に具体的な対策を」に重点を置きながら学習し、省エネを呼びかける活動等、地域へ啓発のための発信も行う力を育てることをねらいとしている。

教育課程においては、エネルギーの消費と環境への影響、環境保全のための取組などについて、生活科や総合的な学習の時間を中心に「エネルギー環境教育」を位置付け、学習を行う。発達段階に応じた活動や地域の特色を生かした体験を仕組み、子供達が環境にやさしいエネルギーがあることを知り、持続可能なまちづくりに参画し、エネルギー環境と自分との関わりや課題解決に向けての見方・考え方を育成する。

2) 具体的な学習・活動と教育活動費の利用内容

各学年の発達段階を踏まえ、低学年では、自然への親しみとエネルギーを大切にしている心情を、中学年では身近なエネルギーと環境問題についての理解を、高学年では地域や大牟田市へと意識を広げながら「省エネ・省資源」「自然環境の保持・美化」への実践と発信を目標に設定し、体験的な活動を通してながら系統立てた指導を行った。そして、自分事としてエネルギー環境についての課題を捉えさせ、校内や家庭、地域へ向けて発信や実践を行った。

具体的に1年生は、地域の民生児童員の方々にあさがおの植え方を教えてもらいながら、緑のカーテンづくりを行った。2年生は、運動場の落ち葉を使った腐葉土を使って野菜作りを行い、自然の力の素晴らしさと共に、そのよさや喜びを実感した。3年生は、校庭にある樹木の種類や特徴、よさ等について調べ、自然環境について考えたり、太陽エネルギーを利用してさつまいもを使ってエコクッキングを体験する活動を行ったりした。そして、太陽光を中心としたクリーンエネルギーについて調べ、環境のために自分達に実践できることを考えた。4年生は、RDFセンターやエコサックセンター、リサイクルプラザ等の施設を見学・調査し、ごみの処理方法や分別方法、バイオマス発電、ごみを減らすための地域の取組等を理解し、環境保全について考え、解決方法を話し合った。5年生は、校区の川にすんでいる生き物や水質の調査を行った。家庭排水が環境汚染の主な原因であることを知り、給食の食器をパンで拭くなど、自分達にできる身近なことから取り組んだ。6年生は、石炭産業と共に発展してきた市の歴史と公害、生活環境に配慮したまちづくりを進めている現在の市の施策について考えることで、エネルギーミックスの考えや未来の大牟田について自分達にできることを考えた。

3) 学習・活動を通じての成果・効果

1年生は、自分達が育てたアサガオが校舎の3階まで成長し、花がきれいに咲いたことだけでなく、日陰を作ることで、涼しくなることに気づき、自然を大切にする気持ちをもつことができた。

2年生は、身近にある落ち葉を集めて自分達で作った腐葉土を使って野菜を育てたことで、身の回りの自然を大切に生かせば自然の力を循環させることができること、身の回りの環境を大切にすることが、命の循環につながることを実感することができた。

3年生は、太陽光を使ってさつまいもを調理するエコクッキングを通して、太陽光には、今まで気付かなかった力があり、その力はクリーンなエネルギーであることを理解することがで

きた。太陽光のようなクリーンなエネルギーを使うことが環境を守ることにつながることも気付くことができた。また、自分が体験したことを通して、考えたことや分かったこと等の学びを、「めざせエネルギー博士！」としてまとめ、全校児童や家庭へ伝えた。

4年生は、自分達で調べたことに加え、校外学習でさらに詳しく学習したことで、今後環境問題を考える上で、身近なところから自分たちがまずは行動化していくことの大切さやエネルギーを循環させる視点が重要であることを実感した。

5年生は、川環境の学習から、家庭から出る排水やゴミが自然環境に大きな影響を与えることを知り、4年生で学んだクリーンエネルギーへの変換の必要性をさらに実感することができた。環境改善をしていくためには、自分たちが実行していくことだけではなく、周囲へ呼びかけていくことが必要だと意欲を高め、家庭や校内、地域への啓発活動に取り組んだ。

6年生は、石炭産業と共に発展してきた市の歴史と公害を知り、生活環境に配慮したまちづくりを進めている現在の市の施策について考えたことで、エネルギーミックスの考えや未来の大牟田について自分事として捉え、自分達にできることを考えることができた。

このように各学年で考えたことを自分達が実践していくだけではなく、多くの人に知ってもらい、実践を広げていくことが大切であることを共通理解し、授業参観や学習発表会等の機会に積極的に発信した。また、10月には、地域の企業と合同で校区清掃を実施し、同じ地域をきれいにしていこうとする意志をもつことができた。さらに、2月には、学習発表会を通して自分達が学んだ再生可能エネルギーの大切さや、「省エネ・省資源」「自然環境の保持・美化」に向けての取組について紹介した。また、各学年がまとめた学習成果物を掲示したことで、全校児童や保護者、地域の方々に呼びかけることができ、子供達自身、更に継続していこうとする意欲を高めることができた。その後、成果物は地域の公民館にも掲示してもらい、多くの地域の方に紹介することができた。



【1年生 緑のカーテン】



【3年生 樹木教室】



【5年生 川の生き物と水質調査】



【全学年 校区清掃】



【学習の成果物の掲示】



【掲示物を見学する児童】

4) 2025 年度以降の活動計画や方向性

2025 年度も、エネルギー環境教育を柱として体験的活動や探究活動をさらに充実させていきたい。そのために、以下の点に留意して取り組む。

1. 全教科・全領域にまたがる ESD の実践を通して、PDCA サイクルを確立させながら、2024 年度の実践をさらに高めていく。
2. ESD でねらう資質・能力の系統性を意識し、身近な「ひと・もの・こと」と ICT を最大限活用するとともに、教師の指導力のブラッシュアップを図る。
3. SDG 7・11 の実現に向けて実践していることを全児童に意識させ、発信する場や方法を提案し、活動を広げていく。

2025 年度は、更に、地域の「人・もの・こと」を見直し、学習に参加してもらう機会や発信する機会を増やしたりしていきたい。また、学習したことや課題を、次の学年へ学習前に伝えるなどして、学習内容をつなげて、深化させていきたいと考えている。